

「五ヶ瀬中学校校歌より」

学 び 舎

五ヶ瀬中学校校長室だより
平成30年11月30日
No. 7
文責：校長 戸敷 二郎

GDPとグローバルシンポジウムIN五ヶ瀬

(五ヶ瀬デザインプロジェクト)



先月から今月にかけて、本校3年生による「GDP発表」と五ヶ瀬中等教育学校3、4年生と本校2、3年生合同による「グローバルシンポジウムIN五ヶ瀬」の取組が実施されました。

いずれの取組も『五ヶ瀬町の将来（未来）を考える』という視点から、それぞれの生徒たちが意見を発表したり意見交換をしたりする取組でした。

まずは本校のGDP発表

下の一覧は、本校3年生28名が提言した内容（タイトル）です。子供たちなりに小学校1年生から五ヶ瀬ビジョンを通して9年間学んだ集大成としての「提言」をしてくれました。来月6日には、第2回目となるGDP表彰式も控えています。町長賞（グランプリ）に輝く提言はどれでしょうか？楽しみです。ちなみに昨年度のグランプリは『五ヶ瀬の山にグランピングを作り観光客を増やす』の提言をした松本幸成君でした。

生徒氏名	生徒からの提言内容
飯干 大嵩	・五ヶ瀬ならではのスローフードを作ろう
猪久保 琥伯	・害獣利用を考えて五ヶ瀬を活性化させよう
太田 愛菜	・五ヶ瀬の食材を使った料理を出すカフェやレストランを作って観光客を増やしたい
興 裕 詠暉	・ドローンを使って高齢者の役に立とう
坂本 武琉	・五ヶ瀬町の生活環境を充実させ、五ヶ瀬の良さを生かして定住人口を増やそう
佐藤 夢香	・雑誌で五ヶ瀬町を広めよう
津隈陽加里	・子どもを預けられるようにし、親が集中して仕事ができるようにしたい
甲斐真梨亜	・高齢者が住みやすい町にしよう
興 裕 志織	・祭りを利用したツアーを計画し、五ヶ瀬町を活性化しよう
辻 一気	・五ヶ瀬町を魅力的なふるさと納税先にしよう
平木 心優	・カフェ&SNSで五ヶ瀬の特産品を知ってもらおう
藤井 詩	・五ヶ瀬ワインを継続させるために、若者のぶどう農家を増やしたい
藤川 紅葉	・長期滞在施設を作り、五ヶ瀬への移住者を増やそう
寺本 真	・ツリーハウスで観光客を増やそう
伊藤 蓮	・配給制のトラックを作り、高齢者の住んでいる所まで届けたい
太田 雅希	・アスレチック施設を作り、五ヶ瀬に観光客を呼び込もう
檜本 愛鈴	・赤谷商店街を賑やかにしよう
新地 菜央	・冬以外にもスキー場を使って町を盛り上げよう
寺本 光	・桜で町を盛り上げよう
成松 龍政	・SNSで五ヶ瀬を発信しよう
藤本 優花	・五ヶ瀬町で働いてくれる保育士さんを増やそう
甲斐 瑠大	・SNSで五ヶ瀬を発信し、町の活性化につなげよう
岩本 零音	・五ヶ瀬発インスタ映え〇〇で観光客を増やそう
栗山 真愛	・農泊で観光客が1年中来るようにしたい
杉村 桜花	・五ヶ瀬でのスキー、スノーボードを満喫できるツアーをしよう
藤川 剣太	・特産品のPRを作り、TV、ラジオなどで流して観光客の多い町にしよう
宮本 知祐	・外国人宿泊者を増やそう
山崎 泰誠	・スキー場を1年中利用し、利用客を増やし、観光客を増やそう



次にグローバルシンポジウムIN五ヶ瀬

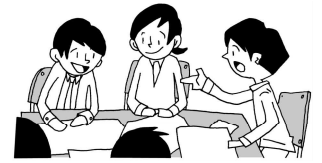
町民センターを会場にして本校と五ヶ瀬中等教育学校の生徒たちがワークショップ形式で討論する場面が中心となった取組でした。当日は「地域サポーター」として町内各分野の代表の方々約20名も参加していただき、お一人ずつに子供たちのグループを割り当て、五ヶ瀬の現状や歴史などの観点から貴重なアドバイスをいただきました。



10月の本校GDPでも顔を合わせて討議した2つの学校の仲間達と再び意見を交わす機会を得て、回を重ねるごとに子供たちの感覚がグローバルになっていくのを感じました。これは地域の方々が子供たちと一緒に対等な立場で「未来の五ヶ瀬を考える」真摯な姿を見せてくださった一番の成果だと思います。

「平成」という1つの区切りを迎えた今、老若男女ともに力を合わせて地域の未来を語り合う姿に接し、必ずやこの地道な取組が五ヶ瀬町の将来を明るくものにしてくれると実感できた取組でした。

ちなみにこの取組の様子は、去る11月24日（土）の午前中にUMKテレビ【のびよ！みやざきっ子】で取り上げられ、ご覧になった町外の方々からも高い評価をいただいたところです。



五ヶ瀬中と五ヶ瀬中等教育学校の生徒たち。本当に真剣に町の将来を考え続けてくれている「私たちの宝」です。今後も力を合わせて様々な取組を展開していきましょう！

第7回テーマ

通信機器利用のルール作り

・再び、みなさんと考えましょう

先日、県教育委員会からの依頼で「携帯電話・スマホ等に関するアンケート」を実施しました。まず、**あなたは、自分用の携帯電話やスマホを持っていますか**という質問に対しての回答が

ア 持っている 33人/76人 **44%**

イ 持っていない 43人/76人 **56%** でした。

また、**あなたの家では、携帯電話やスマートフォンなどの使い方について何かルールがありますか**

ア ルールを決めている 21人/76人 **28%**

イ 特にルールは決めていない 55人/76人 **72%**

という結果でした。

最初の「所持率」の高さにも驚きましたが、今回は2番目の「家庭内のルール」についてです。

「学び舎No.4」で同じ内容の調査を報告した際は、ルールを決めている家庭が**約40%**でしたので、今回の生徒の回答はその結果を下回っていることとなります。また、ルールのないご家庭の**約80%**が「今後ルール作りに取り組む」と回答されていることから、今回の調査結果は夏休み前に比べて逆行する結果となっています。この結果の考えられる原因を列記してみます。

- 1 今まであったルールが無くなってしまった。
- 2 ルール作りへの取組を忘れていた。(先送りしていた。)
- 3 ルールはあるのに子供の方がないと思っている。
- 4 ルールなど必要ないと思っている家庭が増えた。 などです



前任校でも同様の傾向が見られ、PTAの皆さんとも協議したことがあるのですが、どうも**3番の「親子の認識のずれ」**が原因のようです。親は「ある」と思っているのに子供は「ない」と認識しているケースが多いようです。

原因はそれぞれ個別の理由があると思われそうですが、どこの学校でも似たような調査結果になっていることを考えると、この「ずれ」を解消していくことが急がれるのではないかと考えています。学び舎No.4でもお伝えしていますが、通信機器を持たせたり使わせたりする場合は、せめて高校を卒業するくらいまでの期間は明確なルールを作るべきだと思います。それもキチンとした「契約」としてのルールが必要で、契約を破った場合のペナルティまで決めて、本人の納得の上で契約を取り交わしておく必要があると考えます。

本校では五中生の守るべきルール「Gルール」が1学期末にできあがりしました。子供たちへの啓発や指導は様々な場面で行っているところですが、めまぐるしく変化する技術革新などの影響もあり「1回決めたからこれでいい。」といったものではなくなってきたらと考えなければなりません。

2学期から取り組んでいる「睡眠表」の記入も、おおむね正直に記入され、睡眠時間も確保してくれているようです。子供たちの未来を明るく希望あるものにしていくためにも、私たち大人がしっかりと守り育てて参りましょう！

